

令和5年度 伊豆の国特別支援学校 第2回 学校運営協議会 記録

1 日 時 令和5年10月26日(木) 午前9時30分から午前11時まで

2 場 所 静岡県立伊豆の国特別支援学校 生活学習室

3 参加者

○学校運営協議会委員

若林 高至 様 なのはな相談室 室長

山田 芳治 様 社会福祉法人春風会 障がい統括施設長

東方 慶 様 三島市手をつなぐ育成会 理事

山元 薫 様 静岡大学 教育学部 特別支援教育 准教授

川島 庸 様 伊豆の国特別支援学校 P T A会長

○教職員

校 長 松本 仁美 副 校 長 廣瀬かよ子 教 頭 井上みづほ

事 務 長 鈴木 健夫 小学部主事 渡邊 康子 中学部主事 水野 靖弘

高等部副主事 末益 美佐 事務主査 小川 友馬

伊豆松崎分校教頭 所 宗子

4 内 容

(1)開会

(2)校長挨拶

(3)みんなで話そう「地域とともに歩む学校」—学校ができること・地域ができること—

(4)閉会

5 議事録

「みんなで話そう」(板書記録写真参照)

○伊豆の国市長来校報告

- ・9月26日伊豆の国市山下市長が来校。
4階からの伊豆の国市一望の景色はじめ、児童生徒の学習や施設を見学。
図工美術作品、高等部作業学習製品にも関心をもって見学。
- ・市長・校長・P T A会長と懇談。
市長の地域への思いと、学校とのコラボレーションの可能性に話が弾む。
韮山地区が共生社会に向けて恵まれた環境であること。
(地区内に小学校2校、中学校1校、県立高校2校、特別支援学校2校ある)
障害を持った方の卒業後や就労について。
農福連携の推進。特産物を使って障害者雇用や地域産業活性の可能性について。
体育館やグラウンドの外部開放貸出と観光地活性化の可能性について。
- ・9月、伊豆長岡温泉地域活性化アドバイザー今井様、来校見学。
- ・10月、危機管理課と障害福祉課来校。地域防災と避難所について相談。

○テーマについて

- ・地域とともに歩む伊豆の国特別支援学校として、地域と学校がともに活性化していくために何ができるか。一緒になって学校と地域が活性化していく、引いては共生社会の実現に向かっていくアイデアを出し合う。

○委員よりアイデアや意見

- ・学校がメディアを作り、生徒がメディアを通して地域のことを紹介する。
FM伊豆の国に出演し、地域のことなどを紹介してはどうか。
 - ・芸能人が、福祉施設を回ってそこからラジオ配信している番組もある。
 - ・地域での情報の共有や発信が必要と感じる。
 - ・障害のある方が、地域で活躍している場面を紹介していくと、共生社会への啓発になる。いろいろな情報ツールの活用を工夫できるとよい。
 - ・情報発信では、学校が今地域の公民館を清掃しているが利用者がいない時になってしまう。やっていることのアピールが大事。
 - ・地域の高校生に、発信の仕方やメディアの活用方法を考えさせることもいい。
 - ・京都府の白河総合特別支援学校では、学校を地域に開放し、公園やカフェコーナーもあり、作業学習で作ったパンを販売するなど、地域の中で学習している。
 - ・作業学習製品も、福祉祭等で学校の生徒が販売するだけでなく、地域の人に販売してもらおう。それにより、地域の人々の口コミも広がり情報発信になる。
-
- ・中学部の地域の方との花植え作業。学校内だけではできない体験になっている。地域の方も楽しそうに生徒に教えてくれたり話したりして交流していた。
 - ・学校間交流。特別支援学校は是非やりたい。小中学校はカリキュラムもあり、時間の設定等の難しさもあると思われる。その中でもやってみると、大きな成果があり、ようやく今年度、第一歩ができたと感じる。
-
- ・伊豆の国市でも、教員の働き方改革も併せて中学生の部活の時間を短くして、地域で過ごす活動を始めている。課題になるのは、集う場所とそこまでの移動手段。
 - ・地域で子供に教える多様な知識を持っている人材を活用し学びの機会を設定している。いつでも自由に入出りできる場ができれば、小中学生だけでなく、地域の人や障害を持った人も集まってくると理想的である。
-
- ・本校の芝の管理の課題に対し、地域のボランティアを募り、生徒と一緒に活動して取り組む案を考えている。学校は地域のマンパワーが得られ、生徒との交流もできる。地域の方は、学校への役立ち感や学校を知る機会になる。
 - ・市内では、学校や地域の応援隊として、地域やPTA、おやじの会などが、地域や学校の環境美化と一緒に取り組むことがある。
 - ・高等部が交流で参加している伊豆総合高校との交流の修善寺大掃除なども同じような形である。伊豆長岡・葦山大掃除と言うものになっていくとよいのではと感じる。
 - ・芝のグラウンドも、フットサル教室やチームとして、借りたい希望はあると思われる。他施設では、借用すると掃除をするという当番役割がついてくる。そのようなものでもいいのではないか。
 - ・障害者サッカー団体への貸し出すことで、本校の生徒の余暇利用にもつながると、両方にメリットがある。

- ・外部の方を入れたり連携したりするときは、はじめは学校や教員の負担も多いのではないか。働き方改革の中でその点の課題がある。道具の用意やけがをした時の対応などの課題も整備する必要がある。
- ・他校では、地域の方や市団体やシニアクラブとの連携などもあった。お互いにギブアンドテイクのメリットがある。
- ・伊豆松崎分校の桜葉の実践紹介。過疎化・高齢化が進む地域で、伊豆松崎分校の作業学習に地域特産品の桜葉を取り入れることで、地域と学校がお互いに活性化する取り組みとなっている。
- ・学校はどうしても学校としての発想になってしまう。これからは企業や民間、地域の視点を持って考えていかななくてはいけない。

○一人一実践 これから自分の立場でやってみようと思うこと

委員より

- ・PTAとしても、地域とつながっていく事を考えたい。
- ・保護者の意識改革。保護者としてもできることを考えて増やしていきたい。
- ・法人で、高齢者の買い物支援事業を始めている。学校の生徒ともそのような事業を一緒にできたらよい。
- ・地域の支援を必要とする方のサポーター養成講座にかかわっている。その中で障害のある人について知ってもらう活動を推進したい。
- ・PTAや、企業、地域サッカーチームなど、学校の応援団としてつながっていく事を支援したい。応援団会員証など作って意欲を高めてはどうか。
- ・他の市では、幼小中高大のつながりで防災教育に取り組んでいるところがある。地域で生きていくと考え、韮山のダイバーシティとして「地域のための防災」と言う視点で何ができるかを考えてみたい。地域で共に生きているというつながりがあると、防災以外にもどうしたら助け合っていけるかを考えるきっかけにもなる。

学校

- ・引き続き、花植え作業で地域と交流を続けていく。
- ・地域や福祉施設のイベントをもっと児童生徒にアピールして、積極的に参加できるようにしたい。
- ・もっと地域の中学生・高校生とかかわりを増やす。他の市町で、高校生が「地域を考える会」を立ち上げ、メディアにも取り上げられ話題になった。そのようにメディアが取り上げる機会も有効な発信として生かしたい。
- ・事務職員として学校の運営にかかわり、「もっと地域に知ってもらう」「地域とつなぐ」と言う視点で調整役となっていきたい。
- ・小学部段階では、入ってくる人をウエルカムの姿勢で迎えたい。児童はボランティアや教員以外の人とかかわりで得るものがある。来てくれた人も本校の児童とかかわりで得るものが必ずある。かかわりの中でお互いに得るものを大事にしていきたい。
- ・教員の「地域とともに」という意識改革を進めたい。

○校長より

栗山監督の講演を聞く機会があった。「～だからできない」ではなく、「やってみよう」とやってみることで変わっていき見えてくるものがある。そして次に進める。

今日出た意見やアイデアを、後期に一つでも実践してみしてほしい。来年度の学校経営計画にも取り入れていきたい。